

会長からの お知らせ

令和8年度大阪医科薬科大学医師会 評議員会・総会を開催しました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

2026(令和8)年6月22日(月)、令和8年度大阪医科薬科大学医師会評議員会・総会を開催しました。今年度は、日本医師会、大阪府医師会ともに、2年ごとの役員改正の年です。日本医師会は、松本会長、茂松副会長等、大阪府医師会は加納会長等、無投票で再任されました。

医師会の組織力強化のため、当医師会の上部団体である日本医師会、大阪府医師会より、若手勤務医に医師会への加入をうながすよう求められています。当医師会の会員数は575名(総会開催日時点)で、昨年の総会時の561名から14名増加しましたが、研修医会員は42名から34名に減少しました。今後も一層の勧誘活動が必要ですので是非ご協力をよろしくお願いします。

大阪府医師会は、全会員における勤務医の割合が57%と全国でも高い比率ですが、幹部にはまだまだ勤務医が少ないのが現状です。

総会では例年通り、令和7年度活動報告ならびに令和8年度活動計画の説明を行いました。詳細はホームページ(<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ompuda/about/business.html>)をご参照ください。どちらも審議のうえ承認されました。続いて令和7年度会計報告ならびに令和8年度予算案について説明を行いました。毎年繰越金を減らす方向で運営していますが、会報制作費が年々増加していますので、前年より切り詰めて予算を組みました。こちらも審議のうえ承認されました。

当医師会の先生におかれましては、今後とも若手医師への医師会勧誘を含めまして医師会活動へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

会長からの お知らせ

第34回北摂四医師会医学会総会を開催しました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

2026(令和8)年6月13日(土)、第34回北摂四医師会医学会総会を開催しました。北摂四医師会医学会は、高槻市医師会、茨木市医師会、摂津市医師会、大阪医科薬科大学医師会および大阪府医師会勤務医部会第2ブロックの連合によって構成されています。今年度は茨木市医師会が当番で、大阪医科薬科大学学1講堂において開催しました。当日会場には、42名の先生が来場されました。

特別講演は、大阪医科薬科大学形成外科教室教授の塗隆志先生にお願いし、「マイクロサージャリー・リンパ外科・デジタル技術の融合」と題して講演をいただきました。マイクロサージャリーの技術はいまや頭頸部外科、乳腺外科、外傷外科、小児形成外科などの幅広い分野において欠くことができないものになっています。当初の特殊な技術から一般的な技術へと広がり、最も革新的かつ急速に発展している治療技術であることを、参加者一同高い関心をもって拝聴しました。

一般演題では12題発表いただき、活発な討論が展開されました。北摂四医師会医学会ホームページ(<https://4ishikai.jp/meeting/index.html>)に抄録を掲載していますので、是非ご高覧下さい。この中から2題を優秀演題賞として選考して、賞金5万円を授与いたします。優秀演題賞の対象は、昨年度から勤務医に限らず当ブロックの医師が発表する全ての演題としました。

来年度は、6月12日(土)に開催します。一般演題でのご発表、多数の先生方のご参加をいただきますようよろしくお願いいたします。

大阪府医師会加納会長に 特別講義を実施していただきました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一



加納会長

加納会長は、大阪府医師会、医師会活動への理解促進を目的に、医学生に向けた特別講義を実施している。1月22日午後には近畿大学医学部、2月4日午後には大阪医科薬科大学において、それぞれ2学年を対象に加納康至会長が特別講義を実施した。

はじめに加納会長、師会に入ると、医師は、医師会が会員の6割以上が勤務医など開業医以外の医師で構成されていると概説。医師会が「国民の生命と健康を守る」「医師の医療活動と生活を守る」ために、医師会活動を通じて、医療行政▽地域の時間外・救急対応▽制度設計——などについて働きかけや提言をしていると説明した。

「中堅・新人医師は医師会活動に時間を割くことが難しいと思う」と強調した。

最後に、最近の医療財政状況を解説。医療財政が厳しい現状を指摘し、医師会が財政を改善するために取り組んでいることを述べた。

「中堅・新人医師は医師会活動に時間を割くことが難しいと思う」と強調した。

最後に、最近の医療財政状況を解説。医療財政が厳しい現状を指摘し、医師会が財政を改善するために取り組んでいることを述べた。

「中堅・新人医師は医師会活動に時間を割くことが難しいと思う」と強調した。

最後に、最近の医療財政状況を解説。医療財政が厳しい現状を指摘し、医師会が財政を改善するために取り組んでいることを述べた。

大阪府医師会、医師会活動への理解促進を目的に、医学生に向けた特別講義を実施している。1月22日午後には近畿大学医学部、2月4日午後には大阪医科薬科大学において、それぞれ2学年を対象に加納康至会長が特別講義を実施した。

はじめに加納会長、師会に入ると、医師は、医師会が会員の6割以上が勤務医など開業医以外の医師で構成されていると概説。医師会が「国民の生命と健康を守る」「医師の医療活動と生活を守る」ために、医師会活動を通じて、医療行政▽地域の時間外・救急対応▽制度設計——などについて働きかけや提言をしていると説明した。

「中堅・新人医師は医師会活動に時間を割くことが難しいと思う」と強調した。

最後に、最近の医療財政状況を解説。医療財政が厳しい現状を指摘し、医師会が財政を改善するために取り組んでいることを述べた。

「中堅・新人医師は医師会活動に時間を割くことが難しいと思う」と強調した。

最後に、最近の医療財政状況を解説。医療財政が厳しい現状を指摘し、医師会が財政を改善するために取り組んでいることを述べた。

加納会長が 医学生に医師会活動を語る

近畿大学医学部・大阪医科薬科大学で講義

次いで、医師法などを学ぶ医療保険に関する法令を取り上げた。「知らなかった」では済まされない重い罰則が設けられている場合もあり、積極的に勉強するように呼びかけた。あわせて、応招義務や医療訴訟に陥れ、医師会へ入会することにより、医師賠償責任保険の加入もできると加えた。また、日本の医療保険制度の三本柱として、①国民皆保険制度②現物給付③フリーアクセス——を列挙。「いつでも、どこでも、誰でも」平等な医療を受けられる環境を整えるためには、▽都市部と▽地方の実情に応じた体制構築▽かかりつけ医機能報告制度▽新たな地域医療構想——など切迫した課題を語り、医師会に少くも目を向けて、積極的に関わってほしいと結んだ。



近畿大学医学部（上）および大阪医科薬科大学（下）の医学生は熱心に聞き入った



■大阪府医ニュース 2026年(令和8年)5月6日 第3143号 第4面
関連するホームページ

<https://www.osaka.med.or.jp/doctor/doctor-news-detail?no=20260506-3143-10&dir=2026>